



人間発達講座

自分づくりを生きる わたし

第3回 Life～いのち・くらし・つながり～

オンライン開催 パソコンでも、スマートフォンでも！

▶▶▶ 2021年 **1**月**24**日(日) **9:20~16:45**
9:00より入室できます

今回の講座では、「生活と発達」について考えます。

これまでの講座で「生活」はどの発達の時期においてもキーワードの一つでした。今回のコロナ禍により「生活」そのものが大きく変化させられています。ふれあうこと、集うことが難しくなり、制約の多い暮らしになる中で、おとなも子どもも例外なく生活や生き方、あるいは生命そのもののあり方に直面しています。

「新しい生活様式」といわれていますが、今一度、形式ではなく私たち「一人ひとり」が必要としている生活の質はどのようなものなのかについて、人間発達の視点からとらえ直すことをふまえて確認や共有をすることが、社会のあり方としても欠かせない重要な局面にあるといえます。

今回は初めての「オンライン」開催となります。距離という障壁を超えてみなさん方と気持ちをより合わせるといふ、人間発達研究所の新しい講座のとびらを開いてみませんか。

開催形態

オンライン（ZOOMウェビナー）
アーカイブ（録画）視聴は2月14日まで。
大津市内に視聴会場も設けます。

受講料

- 一般 8,250円（7,500円+税）
 - 会員 6,050円（5,500円+税）
 - 25歳以下会員※ 2,750円（2,500円+税）
- ※1994年4月2日以降生まれの会員

主催
お問い合わせ

人間発達研究所

〒520-0052 滋賀県大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階
TEL/FAX 077-524-9387 E-mail j-ih63su@j-ihd.com

後援

滋賀県・滋賀県教育委員会・滋賀県社会福祉協議会

講師・講義内容

9:30▶10:30

基調報告

人間発達研究所
運営委員会

発達保障の課題2021

今回の講座のねらいや、みなさんと考えあいたいことを提起します。運営委員の共同研究の発表の場でもあります。

10:45▶11:50

第1講義

副島賢和さん
(昭和大学)



病弱児教育の知見から学ぶコロナ禍下の教育

—院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと—

コロナ禍の状況で、子どもたちも先生方もつらい思いをしていることと思います。特に、人に触れ合うことやおしゃべりすることなどが避けなければいけないことになっているのは、想定外だったことでしょう。ただ、病弱教育は今までも、感染予防などをしながら、いかに子どもたちの学びを保障するかということを考えてきました。この状況で、病弱教育の知見が、子どもたちや先生方のお役に立てることがあると幸いです。

<主な著書>

- ・はなれていても、だいじょうぶ 今こそ伝えたい、院内学級で教員として学んだこと (学研プラス、2020年)
- ・あかはなそえじ先生のひとりじゃないよ—ぼくが院内学級の教師として学んだこと (学研教育みらい、2015年)

13:00▶14:05

第2講義

川田学さん
(北海道大学)



乳幼児期の発達と生活：信頼の中間共同体としての<保育>を考える

1990年代以降、子ども観や保育観の大きな見直しの時代に入っていると思います。

大規模自然災害の頻発やパンデミックは、近代化と「戦後」の価値観を大きく揺さぶっています。子育てをはじめとする人間の孤立化の進展は、ますます発達と能力を「個人」に閉じ込め、おとなたちの道迷いは子どもの早期競争と分断をあおりがちです。そのような社会では、子どもは幼いときから「不安」をベースに自己形成します。いま求められるのは、個を強くすることではなく、社会の中にちいさな「やってみよう」を実現する中間共同体を構築することだと思います。「保育」には、その潜在力があります。制度政策の課題と明確にするためにも、本講座では、少し大きな視野で保育の社会的価値を考えてみたいと思います。

<主な著書>

- ・保育的発達論のはじまり (ひとなる書房、2019年)
- ・子どもの世界を守る—遊び・育ち・経験 (共著、明石書店、2019年)

14:20▶15:25

第3講義

寺川志奈子さん
(鳥取大学)



学童期・思春期の発達と生活—支援学校中学部における“自分づくり”

生活年齢や生活経験を重ねるなかで、9、10歳ころの発達の節あたりに課題のあるこどもたちも、他者を見つめ、他者からみられる自分を意識し、自分を深く見つめ始めます。そして、自分が暮らす社会や文化にも目を向け始めます。仲間とともに、外の世界の新しい価値観と出会い、その中で、かけがえのない自分や、自分の大切な価値に気づいていくことをささえる支援のあり方について、支援学校中学部の実践から考えてみたいと思います。

<主な著書>

- ・新版 教育と保育のための発達診断・下—発達診断の視点と方法
(共著、全障研出版部、2020年12月)
- ・自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価1 子どもの「ねがい」と授業づくり
(共著、クリエイツかもがわ、2019年)
- ・七転び八起きの「自分づくり」：知的障害青年期教育と高等部専攻科の挑戦
(共著、今井出版、2017年)

15:40▶16:45

第4講義

奥田知志さん
ほうぼく
(NPO法人抱樸)



コロナ後に私たちが作りたい社会とはどんな社会なのか

コロナ禍で失業し、同時に住居を失う非正規雇用者の居住支援のために、クラウドファンディングで1万人以上から1億1千万円以上を集められ、話題となりました。相模原のやまゆり園障害者殺傷事件では、植松被告に面会され、あの事件は決して特異な出来事ではないのではないかと問われました。困窮者支援に携わって32年、「共に人として出会う伴走型支援」を実践されてきました。コロナ禍で何が浮き彫りになったのか。コロナ前の社会にあった課題はなにか。そこから見える、これから私たちが作りたい社会とはどんな社会なのか、考えあいたいと思います。

<主な著書>

- 『「逃げおくれた」伴走者：分断された社会で人とつながる』
(本の種出版、2020年12月)
- 『生活困窮者への伴走型支援』(共著 明石書店、2014年)
- 『「助けて」と言える国へ—人と社会をつなぐ』(共著 集英社新書、2013年)

申込方法 どちらかをお選びください

①インターネット

右のQRコードから、申し込みページにアクセスしてください

研究所のホームページからもアクセスできます

※メールアドレスは正確に入力をお願いします

登録後すぐに確認メールが届かない時は、メールアドレスの入力間違いか

迷惑メールフォルダに入った可能性があります

不明な場合は、人間発達研究所まで

※インターネット申し込み手数料はご負担ください



②専用申込用紙（払込取扱票）

・一人1枚ご使用ください。記載事項をみれなく記入の上

受講料を郵便局からご送金ください（手数料はご負担ください）

・申込用紙を利用しての会費の払い込みはできません

※メールアドレスは視聴に必要です（視聴会場ご希望の方はその旨ご記入ください）

●出張などで上記の方法での申し込みが難しい場合はご連絡ください

●講座のテキストは事前に郵送します（1月20日頃予定）

▶申し込み締め切り **2021年1月15日（金）まで**

▶キャンセルについて 郵送・FAX・メールで人間発達研究所までご連絡ください

キャンセル受付の返信を必ずご確認ください

※2021年1月15日（金）まで、全額をお返します

ZOOMの接続テストをしませんか？

ZOOMの経験がない方、利用に不安のある方は、参加をおすすめします

1月15日（金）20時～30分ほど 申込時に参加希望を知らせてください

視聴会場（先着30名）



ホテルテトラ大津・京都

〒520-0054 滋賀県大津市逢坂1-1-1

※大津駅南口改札直結